

実施報告

【日 時】2015（令和7）10月19日（日） 曇り

【観察場所】京都市上京区 京都御苑

【集 合】午前9時30分 京都御苑 堺町休憩所

【行 程】堺町休憩所付近、12時集合写真後流れ解散

【講 師】佐野修治氏、京都御苑キノコ会世話役 関西菌類談話会会員

【参加者】一般参加者（8名、内子供4名）、傘下山岳会会員 17名、自然保護委員 12名

【概 要】朝方まで雨模様で集合時間には上がり、絶好のキノコ観察日和となった。御苑内はあちこちにキノコが乱立していた。講師には、御所で観察を初めて50年になる京都御苑キノコ会世話役の佐野修治氏を迎え、親子連れの一般参加者や府岳連傘下の加盟団体会員、自然保護委員会の各委員、総勢37名が参加した。キノコの観察を通して樹木の状態やその環境が見えてくる、幼菌から成菌、老菌に至る変化と子孫を残すために胞子を出して終えていく命の輪廻、約35種余りの観察ではあったが、キノコの名前だけでなく樹木との共生（菌根菌）か、弱った木に取り付いて分解する腐朽菌かなど、生物界でのその役割などの話など、多岐にわたるキノコ談議を傾聴した。

【全体写真】



【観察したキノコ】



①チチアワタケ



老菌と成菌。笠の裏は管孔、猪口。イグチの仲間。フランスではポルチーニと呼ばれ料理に使う。日本では昔は食べたが、現在は要注意。

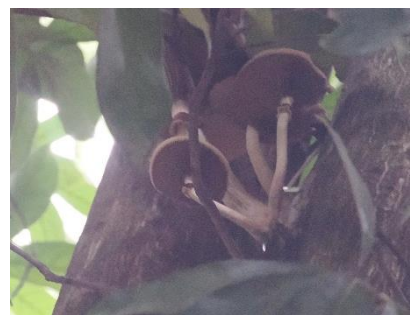


②ツルタケ（テングタケの仲間）



鳥のツルが羽を広げた形を連想して命名。
ツルタケが生えると、環境の自然度が高いと
される。菌根菌（共生菌）。根とつながって助
け合う。現在は有毒扱い。タマゴタケの仲間。

③ヤナギマッタケ（オキナタケ科）…食可



木材腐朽菌。カエデやニレなどの広葉樹の枯
れた部分によく付く。
右は、マテバシイの樹幹についている。
寄主の樹木が弱ってきているサイン。「キノコ
を通して木や環境を見ることができる。」（キノ
コ目）・キノコを食べに来た虫が、他所でウ
ンチ…菌が広がっていく。

④タブノキの切り株に付いたキノコたち



左、ベニタケ 右、コウヤクタケの仲間
そのほかに、コフキサルノシカケ、カワラタケ
の仲間

⑤スミレホコリタケ



紫色の胞子を放
出。芝生や草地
に生える。大小の
ボール状。
ノウタケに似る

⑥コウジタケ（イグチの仲間）



麴の匂いがする。
柄の色は黄色で縦の赤い
繊維模様があり、触れると
青色に変色する。

⑦ナラタケモドキ



老菌と成菌。右の黄色いきのこはニガクリタケ（有毒）。ナラタケモドキはしばしばニガクリタケと一緒に出ることがある。誤って食べると食中毒を起こす。

⑧コガネキノカラカサダケ



左、幼菌
中、右、成菌
レモンイエロー色

「幸せを呼ぶキノコ」、観葉植物によく出る。老菌になると白色。

⑨コツブタケ



コツブタケ老菌。胞子は茶色。キノコ染めにすると、黄金色になる。(右)

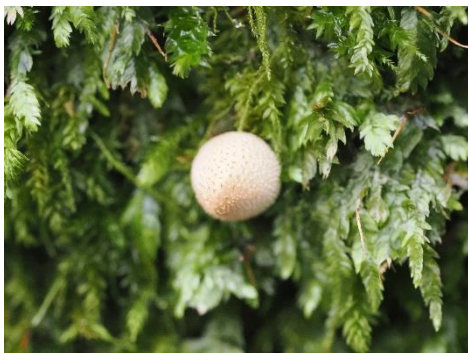
独立栄養と従属栄養の話。植物は光合成によって、成長に必要な養分を自ずから作る。(独立栄養) 動物や菌類は他者が作った養分を利用する。

⑩オニフスベ 老菌にカビ、珍しい。



若い時は食可。本来のオニフスベは白色。
大きいものは直径 50 cm 越えもある。

⑪モリノコダマタケ…御所では新記載種、発表準備中。



コケに寄生して発生している。



「シロトリフ」(チャセイヨウショウロ)の発見(京都新聞掲載済み) DNA 鑑定に出して 99.9%以上の判定。

※ショウロ(松露)、日本版トリフ。天橋立の海岸沿いの松林(黒松)の砂地に出る。

※、京都御所の記載種は 423 種。奈良十津川村 5 年で 412 種を記録。御所も負けてはいない。

⑫オチバタケの仲間（この種は同定が困難）



落ち葉を食べて分解し、土に戻す役割。

木材腐朽菌。

※、マテバシイの木に付くヤナギマツタケ…木が弱ってきた証拠。こんな木の横や下は倒壊の危険。リスクマネジメント。

⑬コフキサルノコシカケ



薬効がある。漢方薬に使用される。

※、マンネンタケ（靈芝）も漢方薬として利用される。がんに効く。「信じる者は救われる」

⑭腐朽菌の仲間（名前不明）



樹々、葉を腐らして分解し、地球の緑を守っている。

⑮アセタケの仲間（写真不明）

⑯ツルタケ（テングタケの仲間）



柄は中空、触るとすぐ折れ、ヒダの周りの条線はヒダと同数。

⑰カウウソタケ（木はサクラ）



カウウソの背中
の皮に似る。

⑱ナラタケモドキの広がり



地中の根の広がりを利用して菌糸が伸びる。
※アメリカのオニナラタケの研究で、3～4 キロ先のオニナラタケの菌糸の DNA が同一。

⑲アカハツ



ヒダがオレンジ色、紅葉の始まる時期に出る。

⑳ハナビラニカワタケ



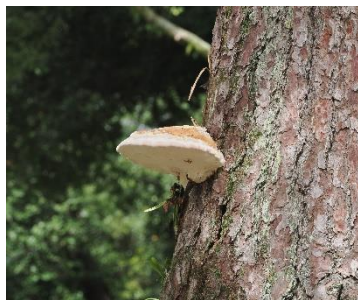
食可、美味しい。

クロハナビラニカワタケは毒。

②①シラゲタケ…表面にあらい毛



②②ツガサルノコシカケ (左から成菌、老菌、幼菌)



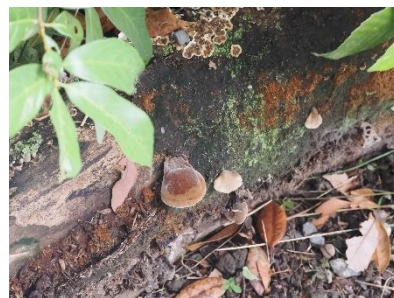
②③切り株に集まるキノコ



カワラタケ(昔はクモタケと言った)



コフキサルノコシカケ



アラゲキクラゲ 他にニクウスバタケ、ウスヒラタケなど

②④ヒラタケ (食可)



地中から出ているので
ヒラタケと分かりにくい。
ツキヨダケを本種と間違えて、食中毒事故が多い。

②⑤マゴジャクシ



マンネンタケによく
似るが、本種は針
葉樹に付き、マン
ネンタケは広葉樹
に付く。

②⑥オオワライタケ (毒)



神経系が侵されて
笑ったような表情。
麻薬として売り出さ
れる事例あり。

②⑦イボテングタケ (毒)



カサの周囲の条線
はヒダの数と同じ。
モミなどの針葉樹と
共生。

②⑧スエヒロタケ



南極を除く全世界に分布。菌糸が気管支
から肺に入りスエヒロタケ感染症を発症
することがある。

②⑨その他、オチバタケの仲間、ベニタケの仲間、アセタケ、チチタケの仲間を説明。

以上